

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	東京芸術大学
整理番号	B03
構 想 名	“藝大力” 創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>グローバル化が急速に進展する今日、国際的な芸術文化交流による国境を越えた相互理解の推進や国際平和の実現などが求められている。本構想は、このような状況の下、我が国の芸術文化を世界に積極的に発信することが重要であるとの認識に基づき、単に世界第一線で活躍できるアーティスト・クリエイター等の芸術家を輩出するだけでなく、芸術文化の承継や国際発信等を担うアーキビスト・キュレーター等のマネジメント人材育成も急務であり、申請大学の「藝大力」を中核に、我が国の芸術文化リソースを総動員し、芸術文化力によって、世界の文化・社会システムや産業構造等国際社会全体を革新しようとするものである。</p> <p>上記の構想や目標に基づき、大学の特性を活かした取組を積極的に積み重ねており、数多くの国際的なプロジェクトが実施されるなど、本事業の活用により、国際的に互恵的な活動を行い、教職員や学生の意識改革につながる等、国際連携、グローバル人材育成、大学のガバナンス及びマネジメント体制の改革など、成果が挙がっており評価できる。</p> <p>芸術系大学としてオンリーワンのグローバル化の取組であり、この取組を通じてグローバルに活躍する芸術家や、その活動を支えるアート・マネジメント人材の育成が期待される。</p> <p>一方、外国語による授業科目の増加やジョイント・ディグリープログラムといった国際共同学位プログラム開設の進捗が計画に比して遅れている。また、学生、職員など全体の外国語能力の向上については、多くの課題が残っている。</p> <p>大学の世界展開力強化事業なども併せて大学の国際化を積極的に推進してはいるが、事業の自走化に向けてクラウドファンディングなど、他大学がなかなか実現できない工夫を推進していることは高く評価できる。一方で、寄付金を含めて、不確実な財源のみに依存することに対して懸念があるため、本事業の自走化をより確実にするために、更なる財源確保に努める必要がある。</p>	